

※2019年度上半期の予定(変更の可能性あり)です。



谷川連峰展
みなかみDAY

4月28日(日)
群馬県自然史博物館

この日はみなかみ町民は無料で見学
できます。(受付で町民であることを
証明できるものの提示が必要)



みなかみユネスコエコ
パークフェア

6月8日(土)9日(日)
イオンモール高崎

同時開催
ふるきらプレオープンイベント
みなかみユネスコエコパーク
イベント
6月15日(土)、16日(日)
たくみの里

ホテル鑑賞の夕べ

6月29日(土)
矢瀬親水公園
ホテル鑑賞コース

谷川岳ウィーク

7月1日(月)~7日(日)
谷川岳周辺

木育キャラバン

7月20日(土)21日(日)
新治小学校体育館

8/31(土)9/23(日)
メイン会場 たくみの里
サテライト会場 道の駅「水紀行館」/道の駅「矢瀬親水公園」
主催者:花と緑のくまづり推進協議会 [花と緑のくまづり]
お問い合わせ:みなかみ町:エコパーク推進課 TEL:0278-25-5029 / 群馬県自然史博物館 TEL:027-226-3543

このほかにも山の日イベント(8月)などもあります。ぜひご参加ください。



MINAKAMI Biosphere Reserve

BR

みなかみ
ユネスコ
エコパーク
通信

volume
02
2019.04



〈BR〉とは〈Biosphere Reserve〉(バイオスフィア・リザーブス)の略で、生物圏保存地域という意味です。日本では親しみやすいように〈ユネスコエコパーク〉と呼ばれています。



空から見たみなかみユネスコエコパーク

MINAKAMI
HEART



自然と人が共生する社会の世界的モデル

みんなで育てていこう

みなかみユネスコエコパーク

Minakami Biosphere Reserve



山、川、森、田んぼ、畑、生き物、人々の暮らしなどなど、今あるみなかみらしさがずっと続いていくこと、これがみなかみユネスコエコパークの目標です。話す、知る、来てみる、くらししてみる、景色をのんびりながめてみるなど、日々の暮らしの中でほんの少しでもみなかみユネスコエコパークにふれて考えることで、みなかみユネスコエコパークは育っていきます。このアクションは、みなかみ町はもちろん、日本、そして地球がこれからもずっと続いていくことにつながっていきます。

みなかみがユネスコエコパークになれたこと、なったこと

東京都心から1時間ほどで訪れることができる距離にもかかわらず、みなかみには谷川連峰や利根川源流域のような日本を代表する貴重な自然が数多く残されています。みなかみ町は、このすばらしい自然を町の宝に位置づけ、自然をまもり、いかし、ひろめる取組を進めています。また、赤谷プロジェクト、谷川岳エコツーリズム、月夜野ホテルを守る会の活動、奥利根水源憲章、藤原の草原再生活動、たくみの里など、町内各所で自然をまもり、いかし、ひろめる多様な取組も盛んに行われています。こういった、すばらしい自然のすぐ近くで自然の恵みを受け、温泉、アウトドア、農業や林業など、自然と上手につきあいながら人々がくらししている姿（自然と人が共生する姿）が世界のモデルである、とユネスコから評価され、2017年6月、みなかみユネスコエコパークが誕生しました。ユネスコエコパークになったということは、これからも自然と人が共生する社会を持続し発展していくことを世界に宣言し実現していくこと、世界に貢献していくということです。

これからもみなかみの自然を〈まもる〉〈いかす〉〈ひろめる〉

世界自然遺産は価値を保存するための取組であるのに対して、ユネスコエコパークは価値を創造していくための取組です。ユネスコエコパークの登録はゴールではありません。みなかみのすばらしい自然と人との共生がずっと続いていくように、自慢できるみなかみであり続けるために、これからもみなかみユネスコエコパークの自然をまもり、いかし、ひろめる取組をみんなで進めていきましょう。

みなかみを子どもたちにつないでいく

未来を担う子どもたちに、みなかみユネスコエコパークならではの環境学習、地域学習や体験ができるように様々な取組を進めていきます。

ふるさとに誇りをもってまい、家族や友だち、そして成長していく中で出会ういろいろな人に〈ふるさとみなかみ〉を自慢してもらえるように。

おさらい ユネスコエコパークとは

ユネスコが推進するMAB計画。これは、自然を守りながら、将来もずっとそこで人間が生きていくために、つまり「自然と人間社会が共生する」ためにはどうしたらいいのか、ということ、科学的な視点で考えていこう、という世界的なプログラムです。このMAB計画のモデルとしてユネスコが認定する地域のことを、Biosphere Reserves「生物圏保存地域」といい、日本では〈みなかみ〉をはじめ9ヶ所の地域が登録されています。日本では2010年から〈ユネスコエコパーク〉という愛称で呼ばれています。

たくさんの人にみなかみユネスコエコパークにふれてもらう取組をしています



みなかみユネスコエコパークの普及啓発を図り、町が元気になることを目的に、登録記念日（6月14日）を含む6月と7月を「みなかみユネスコエコパーク月間」と定め、様々な取組を進めています。



みなかみユネスコエコパーク登録一周年フェア（イオンモール高崎）



登録一周年記念式典



環境学習発表会、ESD、ユネスコスクール取組



SDGs達成への貢献



ポスターコンクール（中学生の部 金賞 水上中 山田萌絵さん）



赤谷の森自然散策



谷川岳エコツーリズム体験



森をまもり、いかし、ひろめる具体的な取組として、木育や自伐型林業の推進を図り、森林を育む広葉樹産業化プロジェクトも進めています。



木育キャラバン



自伐型林業